



最近気になる言葉に「自分を信じて」ということがある。これはスポーツ選手がよく使う言葉であるが、追い詰められた土壇場で使われることに驚きを感じる。

そもそも私は自分を信じられるほど自信がないことから、彼らほど精神的に強くないということになる。『えらいもんだな〜』。少し懐疑的になりながらも、私はいつもそう思うのである。

「信じること」それは当たり前的事ではあるが「信じる」対象が気になるところである。仏教でいえば、とりわけ真宗でいえば「阿弥陀如来の誓願」を信じるということになるのだが、ただ真宗では「信じよう」と努力するものではないということだ。すでに私たちの意思に関係なく、生まれながらにして阿弥陀如来から平等に願われ愛されていることに気づき、感動できるかどうかということに「信心」の受け止めがあるということなのだ。

つまり、それはすでに与えられているものを受け取れるかどうかということ、「信じる」「信じない」ということではないということだ。勝つか負けるか、損か得かを自分の根性に据えて、何かを「信じる」という世界の話ではないということになってくるのだ。

あるがまま、ただ念仏して。そう思うと気持ちも穏やかになってくるのではないか。

## 今年を振り返って

Y・M



令和最初の年末を迎え、今年を振り返る時期がきました。皆さんこの1年間はいかがだったでしょうか。私は定年(60歳)以降、2年間再任用(常勤)1年間私学で常勤として働かせてもらっていました。今年も別の私学で初めて非常勤として働かせてもらう機会をいただき週3日間勤めています。今まで月々金(時には土日までも)職場に向かっていた時とは生活習慣も大きく違うことを実感しています。特に人と交流する場が激減して一人ぽつと生きていくわけにもいかないことから、毎月お寺で開かれている勉強会や、金曜午後の寺での茶話会には勤めて参加するようにしています。

先日、仕事に必要な講習をしている時にこんなことが起きました。その中身は「組織的対応の必要性・危機管理上の課題」でした。今年も多くの災害がありました。講習では東日本大震災でのある悲劇と、ある奇跡が生々しく紹介されました。その途中、ある方が部屋から退出されたかと思ったら、急に扉のガラスから姿が消えてしまいました。参加者の多くの人はその不自然さに驚きました。扉近くにいた人はとっさに部屋を飛び出し、その対応に当たられました。

講習で話を聞くだけで終わらせることなく、その場で実際に起こったことに対応する場面にいたということは大変印象的でした。人は、他人と関わらずに生きていけないと実感しました。

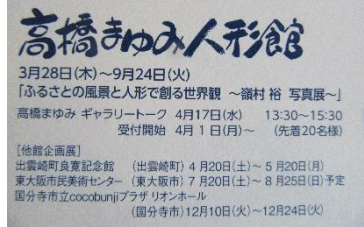
だから、私はこれからもお寺の勉強会や茶話会に関わりたいと思います。この文章を読んで参加しようと思う人は、お寺に来て他人(先哲)と会話しましょう。またこのような日常のふとした出来事での感想を基にした原稿もお寄せください。来年も皆さんと助け合い少しでも無事に過ごせるように願っています。

合掌

## 報徳会

令和3年4月14日(水)・15日(木)

来年、いよいよその準備が始まります。



今年の夏、長野への旅の目的の一つでもあった「高橋まゆみ」人形展を観てまいりました。

ここ飯山市には寺町通りという地域があつて寺や仏壇店が数多くありました。信仰心の深い土地柄であることが伝わってきました。

そんな街中の一角に「高橋まゆみ人形館」があり、数多くの人形が展示してありました。すべてが素晴らしい作品ばかりでしたが、中でも老婆の合掌の姿は、まさに「妙好人さん」の姿を彷彿とさせる得も言われぬ作品でした。

他力念仏の世界観がその空間にが感じ取られ、涙が出るほどでした。

館内は撮影禁止であつたため、館外に掲示されていた作品を撮ってまいりました。



館外風景

## 改めて妙好人



今年もまもなく過ぎ去るついでに。何か忘れ物をしたような思いにさせられてしまうのだが、それはきつといまだやり残していることが、頭をかすめているからであろう。それは何かといえば、寺の活性化実現のための初心の思いが満たされていないということに尽きるのかもしれない。

思い起せばそれは「妙好人」という存在を知ったころに遡ることになるが、同時に光受寺のホームページを開いた頃でもあった。当時としては私にとつてもとんでもない冒険ではあったが、それはまさに教化活動の一環の有効な手段だと確信したからであつた。

その後、ご門徒各位の頼もしい協力もあつて、当初考えられていた以上の目的は達成できたように思つてはいるが、やはりまだまだやりきれないところが多くあるように思える。

「共に現代の妙好人になろう」それは学習会の眼目であり、初心の思いであつたが、絶対他力の世界を感得する事の難しさが深まるばかり。もやっとした思を抱いたままの年越しとなりそうなのだ。

## 今月の掲示板

聖人一流の御勸化のおもむきは

信心をもつて本とせられ候う

5帖御文(十五通)

この一文は「御文」の「聖人一流章」の冒頭の文である。「おとり越し」に読まれることの多い短い「御文」であるが、真宗の要の教えが凝縮されていふ御文である。

「親鸞聖人から伝わっているみ教えは、阿彌陀如来の明るい眼のめぐりあい(信心)をもつとも大切な目的とされたところにあるのだ。」

煩惱に眼が遮られてしまつて「真実」が見えなくなつてしまつている私たちを照らし続けてくださっている仏様に感謝の念仏を唱えましよう。



↑十一月八日喫茶風景。参加者の声。

令和2年1月9日(金)より再開。なお、一月学習会(第2土曜・午後5時半より)

「新年おでんを囲んで」の会を開く予定です。多くの方のご参加お待ちしております。会費500円

除夜の鐘…十二月三十一日(日)

十一時四十五分

新聞原稿募集中……